

（宛先）新潟市長

所在地 新潟市北区葛塚 3197 番地

団体名 葛塚東コミュニティ協議会

代表者名 会長 五十嵐隆吉

実績報告書

令和 7 年 7 月 30 日付け新北地総第 545 号の 2 で変更交付決定のあった下記提案事業について、新潟市まちづくりパートナーシップ事業補助金交付要綱第 21 条の規定により、関係書類を添えて次のとおり実績を報告します。

記

市の課題（テーマ）	提出した部署名	北区役所地域総務課
	課題・テーマ名	自然の魅力や特徴を活かした観光振興
提案事業の名称	子ども達と創り出す「地域の宝箱」	
課題解決するまでの 事業全体の 実施予定期間	令和 5 年 9 月 23 日から 令和 7 年 10 月 7 日まで	
交付決定額	交付決定額	241,000 円
事業実施内容	「雁迎灯」実施報告（2025 年度） 1. はじめに 本事業は、福島潟の自然・文化資源を活用し、地域住民や来訪者がその魅力を体感できる機会を創出することを目的として、2023 年度より 3 か年にわたり実施してきたものです。 最終事業年度となる 2025 年度は、これまでの 2 年間の取り組みを総括し、成果の定着と課題の整理、そして今後の自立的な展開に向けた方向性を明確にする年度として位置づけて実施しました。	

2. 事業内容

2025 年度は、葛塚中学校からの申し出を受け、雁迎灯（かんげいび）のデザイン段階から中学生が関わる参加型の取り組みを計画しました。

また、1 年目および 2 年目で得られた成果を踏まえ、成功した点についてはブラッシュアップを行い、反省点については改善を図る方針で事業を進めました。

具体的には、過去 2 年間に於いて、完成予定図と実際の雁迎灯の配置にズレが生じ、遊歩道を含む予定外の場所にも LED 照明を設置する必要がありました。その結果、想定外の資材の追加購入が必要となり、これらは葛塚東コミュニティ協議会の独自予算で対応してきました。

2025 年度は、こうした事態を繰り返さないよう、完成予定図どおりの設計・配置を実現するための検討と調整を重視しました。

あわせて、福島潟の魅力をより効果的に発信するため、来場者の滞在時間延長を意識した案内方法や PR 手法についても検討し、実行計画の見直しを行いました。

3. 事業の成果

一方で、2025 年度は小・中学校ともに学校行事や教育課程上の制約が大きく、子どもたちが十分にに関われ、かつ楽しめることを主軸とした企画の実現が難しい状況でした。

その結果、当初想定していた参加型企画の一部については、縮小や見直しを行うこととなりました。

しかしながら、同時期に青年会議所（JC）が別途企画・実施した花火ショーが、多くの来場者を惹きつけ、結果として雁迎灯と相乗効果を生む形で来訪者満足度の向上に寄与しました。

この経験を通じて、来場者が強く惹きつけられる体験性の高い企画が、福島潟の価値を高める重要な要素であることを再認識することができました。

また、観覧協力金を募る取り組みを継続してきた中で、雁迎灯の完成度や見栄えに対する来場者の期待が年々高まっていることも明らかとなり、ハイクオリティな演出が来場者満足度に直結することを改めて認識しました。

	4. 将来の展望 今後は、本事業で得られた知見を活かし、行政支援に依存するだけでなく、地域主体による自助努力型の企画を積極的に積み重ねていく方針です。特に、花火ショーのような来場者の記憶に残る企画を参考にしながら、雁迎灯と組み合わせた新たな演出やイベントの追加を検討していきます。 また、福島潟の魅力を伝える読み物や案内看板等を整備することで、課題である「福島潟での滞在時間延長」を図り、地域全体の価値向上につなげていきたいと考えています。 これらの取り組みを通じて、福島潟が単なる観覧スポットにとどまらず、滞在し、学び、楽しめる場所として定着することを目指します。 5. おわりに 本事業において、新潟市まちづくりパートナーシップ事業による予算の支給は、地域主体の挑戦を後押しする大きな力となり、福島潟を舞台としたまちづくりの推進に多大なご支援を賜りました。心より御礼申し上げます。 今後も、本事業で得た経験と成果を礎に、地域自らが工夫と努力を重ねながら、持続可能なまちづくりを進めてまいります。 引き続き、さらなるご支援とご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。
添付書類	- 収支決算書 - 領収書又はその写し - その他必要な書類（事業チラシ、実施写真、図面等）